

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 和泉市

実践研究校名 青葉はつが野小学校

【公開授業】公開日：平成26年2月4日

対象学年：

(教材・教科書名) Hi, friends! 1 Lesson 9 (单元名) What would you like? (ランチメニューを作ろう)	(本時の指導の目標) ○自分が料理したい食べ物の材料をお店で買うという設定で、What would you like?など英語を使いやりとりをする ○グループで他の人が何を買ったのか尋ね、どんな料理を作るのか推理する ○買った食材で、どんな料理をつくりたいのか発表する
--	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・児童に負担にならない程度の、ダイアログを作成した。
- ・既習及び既知の英単語を混ぜながら、新出単語を練習した。
- ・実際に英語を使用する場面を設定し、楽しみながら英語のやりとりができるよう工夫した。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・自分で選んだ食材についてその理由を述べるのは少し負担があったのではないか。
- ・グループで買い物をする設定が、児童の興味と合致して楽しみながら英語を使っていた。
- ・英語で買い物をして終わりではなく、その食材をヒントにクイズをするプラスアルファの取組みに児童は一生懸命取り組んでいた。

【研究協議会】

(テーマ) 「活用の時間」における、“実際に使いたくなる”場面設定	(指導・助言者) 和泉市教育委員会 指導主事 大橋 敏宏
--------------------------------------	------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・どの英語表現をどれくらいの量提示するのが、効果的なのか。
- ・将来使うであろうと予測できる、現実味のある場面を普段から考えていきたい。
- ・できるだけ意思の疎通ができるかんたんな表現が、実際通じるものなのか不安になるときがある。

- 英語を使う必要性をつくるために、どれだけ現実味のある場面設定を考えることができるか、他の学校とも共有していきたい。
-

(まとめ)

1. 児童の興味関心に応じた場面を設定した上で、自分の使いたい表現及び単語を考えさせることで、「これって英語で何と言うの?」という意識を持たせることができる。
2. 正しい英語を意識することも大切にしたいが、話そうとする意識をもっと育てたい。
3. 表現を数多くこなすよりも、同じ英文でも、音（イントネーション、強弱など）を変えれば、意味が変わってくる。その楽しみも児童に教えたい。
4. 教員自らが英語を学ぶことで、意思疎通をする上で困ったこと、またはうまく言ったことを児童に紹介することができる。